

新1号館建設について

矢野 健二*

1. はじめに

創立30周年記念事業として手狭になった建物の増改築を行うことになり、その建設に関する経緯について紹介致します。

当協会は創立25周年行事の一環として、現4号館を平成8年に建築致しました。その後、人員の増加、業務の拡大、建物の老朽化等やその他時代の要求もあり、高島理事長の発案により、30周年記念事業として建物の増改築を検討することになり、平成13年6月を目標に作業に着手致しました。

2. 増改築運営委員会の設置

創立30周年記念事業として建物の増改築を行うことになりましたが、具体的にはどの程度の規模のものをやるのか、どの建物を増築、改築、又は新築するのか、予算は、等々何も決まっていない状況でした。そこで当委員会を平成11年6月に設置し、具体的な内容を検討することになりました。委員長は中西副理事長、委員は総務部：加来部長、矢野次長、環境部：隈本部長、計画部：古賀部長、分析科学部：松岡次長の6名で構成されました。具体的検討事項は次の通りです。

- ①協会の事業見通しと長期建築計画
- ②財政面からみた建築費枠の検討

- ③当面の増改築計画（30周年記念事業）
- ④運営委員会組織について（特に作業チームの組織と運営について）
- ⑤その他

以上の5項目について検討を行いました。この検討を行うにあたり、各部より将来構想や要望等を持ち寄り、それらを検討材料として討議を行いました。以下に第1回会議の結果を示します。

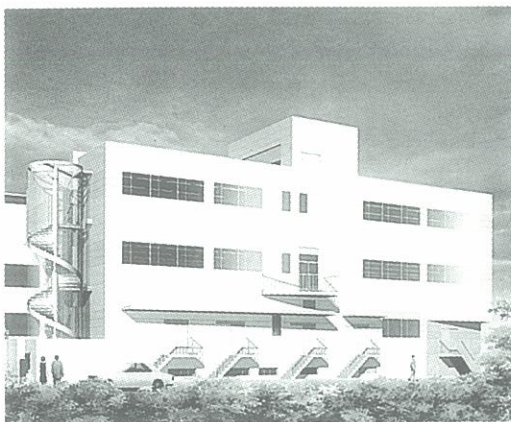
- ①現時点で地球温暖化防止センター設置は具体化していないので同センターを考慮したエネルギー・環境情報センターの増改築は次の機会に見送る。
- ②エネルギー・環境情報センターの用地買収、RI棟の改修、2号館の補修は本年度より実施する。
- ③1号館の建て替え、3号館の建て替えを30周年記念事業として行う。
- ④建て替え用地は1号館の跡地とする。
- ⑤新1号館の建築規模は次の通りとする。

最大建築面積	675 m ²
最大延床面積	2,026 m ²
建築可能総面積 ^{*1}	3,360 m ²
建築可能総延床面積 ^{*2}	5,600 m ²

※1 敷地面積 (5,600 m²) × 建蔽率 60%

※2 敷地面積 (5,600 m²) × 容積率 100%

* (財)九州環境管理協会 総務部長



新1号館の外観（水彩画）

1号館及び3号館を解体すると建築可能面積1,493㎡，最大延床面積2,026㎡となる。

- ⑥3号館の跡地（新1号館建設後に解体）は当面の間は空き地として協会車両の荷物の上げ下ろしに使用する。
- ⑦4号館の環境部の一部，計画部を新1号館に移し，3号館にある分析科学部を4号館に移す。
- ⑧新1号館建築中の仮設の実験室・機材庫・資料室・図書室及び居室は駐車場の一部や3号館，エネルギー・環境情報センター用地に求める。

以上の8項目について具体的に進めるため，第2回会議を開き，次のように決めました。

- ①協会創立30周年記念事業として，1号館，3号館の増改築（新築）を行う。
- ②建築位置は2号館に接し，旧1号館跡地で北東に向けて建設する。
- ③新1号館は建蔽率，容積率からみて，幅15m，長さ45m以内の敷地に地下1階・地上3階建とする。
- ④新1号館は現有1号館，3号館及び該当する

敷地内の実験施設等の機能を取り込み，更に講習会室や図書室のスペースの確保を検討する。

- ⑤新1号館の建設後に3号館を解体し，協会車用の空きスペースとする。
- ⑥新1号館建設の詳細については幹事会を設けて検討する。
- ⑦幹事会は各部2名，議長は矢野総務部長，各部の2名は課長クラスとし，将来をも見込んだ十分な議論を期待する。（幹事会メンバー：中西・加来・矢野・中村・岡村・古田・内田・重富・柳澤・越智・高木）
- ⑧幹事会は建築設計事務所と協議しながら，9月末までに建設案を作成する。

3. 建設幹事会の設置

以上の増改築運営委員会の決定を受け，7月27日に第1回建設幹事会を開催し，基本的計画案を説明し，具体的作業を進めることになりました。また，建築設計事務所は全国規模で業務を展開し，多くの空港ターミナルや研究所などを手がけている「株式会社梓設計」に決定しました。今回の新1号館の建築はこの建設幹事会が成否のカギを握っていて，具体的作業を進めて行くうちに各部間の調整，部屋広さの検討，機能の追求等々，数え切れないほどの問題がありましたが，現在の形態のほとんどはこの幹事会で検討・討議・決定されました。また，アイランドシティへの進出話等もあり，結果的には9月末の報告期限をかなり過ぎた12月7日に増改築運営委員会に報告を行いました。

- ①新1号館は地下1階，地上3階建，建築面積500㎡，延床面積2,000㎡とする。
- ②4号館と同様に空調は部分的に氷蓄熱方式と

し、省エネルギー型とする。

- ③1階部分は職員玄関・生物分析室・理化学分析室・機材庫、2階・3階部分は居室とし、環境部の全課（技術課・生物課・調査課・システム開発課）、計画部の全課（環境計画課・地域計画課）が入居する。また、地階部分は会議室（講習会130名収容）・会議室控室・更衣室（男女各々100名収容）とする。さらに、各階に喫煙スペースを設ける。
- ④4号館については全面的に分析科学部が使用するものとし、3階部分は居室とする。
- ⑤本館について、1階の東側はエネルギー・環境情報センターの居室・図書室・一般開放スペースとし、西側は総務部長室・総務課事務室とする。2階の東側は役員室・部長室等の個室、西側は渉外課事務室・会議室等とする。
- ⑥3号館は将来取り壊しの対象とするが、当の間、1階は分析試料の前処理室・骨材試験室、2階は調査課機材庫、3階はポリビンなど分析試料容器の倉庫として使用する。

報告は以上のような内容で、この後、引き続き作業を進めて行きました。

平成12年2月初旬に約2,300万円で梓設計と設計・施工管理の契約を結び、具体的な設計に入って頂きました。この後、建設幹事会と梓設計による作業が進み、平成12年5月時点で、平成13年6月の完成を目標に以下の合意を得ました。

- ①設計図書及び建設工程は大筋で認められた。
- ②既存駐車場は工事期間中の機材庫・資材庫・生物実験室及び協会車の駐車場として利用する。
- ③既存駐車場は工事終了後も工事期間中と同

じように利用する。

- ④新たに職員駐車場を確保し、使用料は利用者が各自負担する。
- ⑤新1号館3階部分に約3mの張り出し（ダイオキシン分析棟の上部）を設け、より広く利用する。（設計変更が必要）
- ⑥各部・各課の配置は基本的には設計図書に従うが細部については後日調整する。
- ⑦農作物前処理室は駐車場2階に移設する。
- ⑧本館の用途・配置等については応接室の設置も含め、さらに検討する。
- ⑨喫煙場所については各階で配慮する。

4. 建設決定・建設業者決定

平成12年5月の第35回理事会において新1号館の建設が認められ、建設業者の選定作業にとりかかりました。

梓設計のアドバイスを受けながら地場業者2社（上村建設・今林工務店）、全国大手業者4社（大成建設・清水建設・竹中工務店・大林組）の6社を選定しました。

6月初旬、各社別に現場説明会を行いました。続いて、6月中旬に各社より見積書の提出を受け、梓設計に見積もり内容の査定及び設計金額の作成をお願いしました。査定の結果、見積金額を考慮し、交渉を持ちましたが、折り合いがつかず、再度4社より見積書の提出を受け、交渉に臨んだ結果、「株式会社竹中工務店」を建設業者と決定しました。結局、4億5千万円で契約を結びました。なお、設計金額は5億8千万円でした。この業者選定には時間がかかり、決定したのは7月中旬でした。

5. 1号館建築委員会の設置

この決定を受け、「1号館建築委員会」を設置し、建設幹事会を引き継ぎ、建築に関する

全ての事項及び工事工程の管理を担当することとなりました。メンバーは、総括が矢野・総務部（正）中村・（副）松田・分析科学部（正）平井・（副）岩下・環境部（正）内田・（副）重富・計画部（正）柳澤・（副）越智で、委員会には必ず正副どちらかが出席し、意志の疎通を図り、協会全体の意見を集約することに努めました。

7月末日に第1回目の建築委員会を開催し、翌8月1日に「1号館解体お祓い」を行い、工事に着手しました。

1号館は九電病院が当地にあった時の看護婦宿舎であり、昭和50年に協会が当地で業務を始めた時のメインの建物でした。その後、2号館・RI棟・3号館・本館・4号館と新築や増改築を重ねてきましたが、その中で常に中心的な建物としての役割を果たしてきました。色々な機能を集中させてきた経緯もあり、今回の建て替えに際し、電気や水周り等の切り替えにも経費と時間を要しました。

また、南側の松葉谷池と新1号館との間隔が、狭いところでは約2mしか離れていないこと、解体や建築における工事用地が同じ理由でほとんど確保できないこと、大型重機も同様に入り難いこと、また、もちろん協会は業務を行いながらの工事であり、騒音・振動にも十分注意する等々、施工には多くの気遣いが必要でした。このような事も建築業者選定において時間をかけ、慎重に行った理由の一つでした。

駐車場を臨時的機材庫・資材庫・実験室等に利用できた事も工事を円滑に進める上では大変助かりました。

9月11日に「地鎮祭」を行いました。以降、約20回の建築委員会を開き、梓設計・竹中工務店との協議・打ち合わせを行い、5月末の竣

工を目指しました。若干天候等の影響もあり、5月末より竹中工務店作業所検査・社内検査・梓設計事務所検査・福岡市の消防検査・建築確認検査・協会（建築委員会）検査を経て、6月12日に引き渡しを受けました。この引き渡しをもって建築委員会の役割を終えました。

6. 新1号館の概要

新1号館の概要は下表の通りです。

新1号館の概要

建設請負	株式会社竹中工務店	
請負代金	4億7250万円	
設計施工管理	株式会社梓設計	
報酬額	2299.5万円	
工期	平成12年8月7日～平成13年6月15日	
構造	RC及びS構造	
階数	地下1階・地上3階・塔屋階	
機能	研究所	
規模	基準階高	4.40m
	軒高	12.57m
面積	建築面積	612.52㎡
	延べ面積	2056.31㎡
仕上	屋根	外断熱アスファルト防水の上、押さえコンクリート
	外壁	押し出し成形セメント板の上、フッ素樹脂塗装
建具	外部	アルミ製建具（電解着色）
	内部	軽量鋼製建具（合成樹脂調合ペイント）
内部床	コンクリート直押さえの上、長天塩化ビニルシート	
外部壁天井	石膏ボードの上、塩化ビニル樹脂エナメル岩綿吸収板	

7. 各階・各部屋の概要

各階・各部屋の概要は次頁の表及び見取り図の通りです。

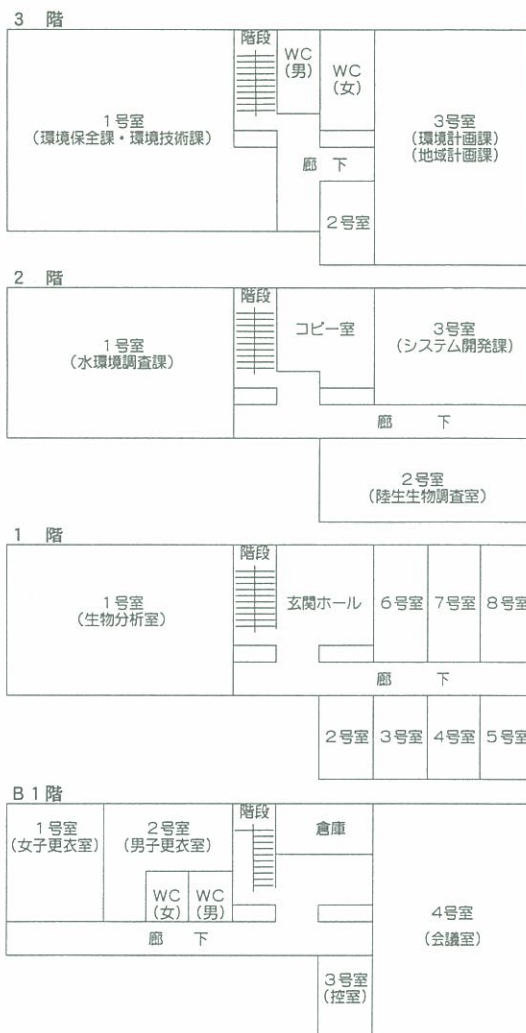
8. おわりに

協会創立30周年記念事業ということで、高島理事長の発案により、新1号館の建設を始めたわけですが、「増改築運営委員会」・「建設幹

各階・各部屋の概要

階	部屋	用途	面積(㎡)
3階	1号室	環境保全課・環境技術課事務室	234.7
	2号室	環境部・計画部共同作業室	18.0
	3号室	環境計画課・地域計画課事務室	204.0
	トイレ	男女トイレ	31.9
2階	1号室	水環境調査課事務室	172.5
	2号室	陸生生物調査室事務室	90.0
	3号室	システム開発課事務室	108.0
	4号室	コピー室	31.9
1階	1号室	生物分析室	172.5
	2号室	VOC分析室	22.8
	3号室	トレーサー分析室	22.2
	4号室	第1機器室	22.2
	5号室	第2機器室	22.8
	6号室	ダイオキシン分析室	36.0
	7号室	飲料水適正検査室	36.0
	8号室	環境ホルモン分析室	36.0
	玄関	職員玄関	43.7
B1階	1号室	女子ロッカー	53.6
	2号室	男子ロッカー	47.4
	3号室	会議室用控室	24.0
	4号室	会議室	153.0
	トイレ	男女トイレ	19.3

事会」・「1号館建築委員会」と様々な会議・打ち合わせ等を開き、広く協会職員の意見を集めつつ完成を見たわけです。バブル崩壊後の不況の中で大きな投資は考えるべきでない・・・等々の意見もありました。しかし、幸い「環境」という追い風も吹いております。今年の年頭の挨拶にありましたように創立30周年を一つの区切りとして、入れ物も新しくなり、気分を一新して創立当時の気持ちになり、職員全員が一からやるという意気込みで進むことが肝要だと思います。



新1号館各階の見取り図